

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	10
サポートクラス	ファランクス	Lv.1:	ファランクス	性別	男
称号クラス				年齢	84
種族	ネヴァーフ			境遇	紛失
出自 (効果)	冒険者			目標	運命

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	21	15	8	9	12	12	12
ボーナス	7	5	2	3	4	4	4
クラス修正	2	2	1	1	0	0	0
他修正							
能力値	9	7	3	4	4	4	4

HP	120
MP	68
フェイト	4

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ヘビーメイス	至近	-1	6	0	0	0	0	0
左手	カイトシールド		0	0	0	4	0	0	0
頭部									
胴部	スーツアーマー				-2	10	0		
補助	ポイントアーマー				-1	3			
装身具	手入れ道具								
能力値			7	0	3	0	4	7	14
スキル	アイアンアームド+アダマント					6	6		
その他									
総計(右)			6	6					
総計(左)			7	0	0	23	10	7	14
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4	1		5	+ 3 d
トラップ解除	7	1		8	+ 3 d
危険感知	4	1		5	+ 3 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
釣り竿	

現在重量:	10	所持金:	9	預金・借金:	
最大重量:	42				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アダマント	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 作成時に物理防御力+3								
バッシュ	1	4	メジャー	武器	単体	命中	-	
効果: 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
アーマーアダプト	5	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 装備している防具一つにつき攻撃のダメージ+SL。装備部位: 全身の場合はふたつの防具として扱う。								
カバーリング	★	2	DR直前	至近	単体	自動成功	防衛中1回	
効果: 対象にカバーを行う。								
カバームーブ	3	4	《カバーリング》	-	自身	自動成功	SL/シーン	
効果: カバーリングの射程を20mに変更する。								
シールドワーク	★	-	パッシヴ	-	自身	-	盾装備	
効果: 0未満の盾の行動値修正を±0に変更する。								
アイアンカバー	3	2	《カバーリング》	-	自身	自動成功	SL/シーン	
効果: カバーリングの際に【物防・魔防】に選択した防具の重量								
ストップガード	5	7	リアクション	-	自身	自動成功	全身装備	
効果: ダメージ軽減。その攻撃であなたが受けるダメージ-「(SL)D」する。攻撃はあなたに自動命中する。								
アームズマスタリー: 鈍器	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 命中判定+1D								
ディフェンダー	5	3	マイナー	-	自身	自動成功	-	
効果: 【物防】+[SL*3]								
アイアンスピリット	★	6	《カバーリング》	-	自身	自動成功	全身装備	
効果: 《カバーリング》によるカバーではバッドステータスを受けない。								
ディフェンスマスター	3	-	効果参照	-	自身	自動成功	全身装備防衛中1回	
効果: ダメージ軽減効果+[SL*2]								
アイアンアームド	3	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 【物防】+SL、【魔防】+[SL*2]。防具重量合計12以上必要。								
アスレチック	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 登攀・跳躍の筋力判定+1D								
リムーブトラップ	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: トラップ解除+1D								

出自
「何度も死に、何度も篝火で復活している」1d6*10の好感度がポイント

所持キーワード
(天):
(上):
(中):
(下): 「坑道?」「助け舟(2)」
(地):

かつて弟のベリオ・オーラフとコンビで冒険者として活動していた、ドワーフの重装戦士。鉄壁の兄「ベリオ」と怪力の弟「ベリオ」の息の合った連携攻撃で数々の冒険をこなしていた。ある時、不運にも強大な敵との戦闘で弟ベリオが死亡してしまう。ベリオ自身も致命傷を受け、意識を喪失したのだが…次に彼が目覚めると、見慣れない篝火が目の前にあった。それ以来、彼は彷徨い続けている。死に別れた弟か、自身の死に場所を求めてか。彼は黙して語らない。

